

## 平成 29 年度 卒業式 式辞

大学とは、人間を幸福にするための科学である学問を通じ、自己を修養し、長い人生を生き抜くための意志と覚悟を確認する場でありました。その日々も、みなさんには今日が区切りです。卒業、修了という節目にあたり、節目とは次の成長に進むプロセスであるということ、つまり、人生は継続的なものであるという真理を忘れないでほしい。平昌オリンピックの金メダリスト小平奈緒さんは「自分が目指しているものを見失わずにベストを尽くしたい」と語り、大会後すぐに次の試合に向けて始動しました。みなさんにも、ぜひそうあってほしい。未来に向かって羽ばたく今日の日を、田嶋徹 熊本県副知事、坂田孝志熊本県議会議長をはじめ、ご来賓の方々、そして、ご家族や、みなさんの幸せを願う方々と共に喜びたいと思います。

みなさんの大学生活、大学院での研究生活はどのようなものだったでしょうか。充実していた、満足している、と応えてくれますか。大学関係者一同それを望んでいますが、もしも、そうではなかったら、人生とは継続的なものですから、満たされぬ思いを次につなげ、よりよき日々の実現に向けて努力してください。

おもしろき こともなき世を おもしろく すみなすものは 心なりけり

この歌は、ときの閉塞感を打破しようと活躍した幕末期の志士、長州は高杉晋作の辞世の歌とされるものです。史実の細部は置きますが、若くして逝った青年の心は、世の中は自分の心次第であると説いています。私たちの向上心も無気力も、自分次第の、心一つで決まります。あなたの心は、今、何を思い、何を語るでしょうか。自分の心の声に耳を傾けてみてください。何も聞こえなくても、聞いてみてください。次の一步を、そこから始めてほしいと思います。

平成時代のゴールが見えていますが、今年には明治維新から 150 年にあたります。日本の現在が維新という近代化の恩恵によることは確かです。その功罪を、みなさんはどのように捉えていますか。一度、真剣に考えてみてください。ものごとには大抵裏表がある。光と影がある。だから、どんなときも、どんな場合でも、私たちには複眼的な思考が必要です。とくに真贋を見極める眼は、私たちに真理の価値、貴さを教えてくれます。だから、問い続けること。考え続けること。夏目漱石は、人として生きるべき道、すなわち人倫とは何かを自らに問い続けました。人は自らに問い続けることで真の価値にたどりつく、と、漱石は小説で語りかけます。私たちの眼前には、答えを出せていない難しい課題が数多く横たわっています。私たちがいかに生きるかも課題の一つです。現代の文明社会は、物理的な繁栄の一方で、人倫の迷走に悩んでいます。価値観の多様性を受け入れきれず、右往左往しています。自分の価値観と異なる他者と対立し、否定し、排除する事象が世界中に見られます。人類という知的生命体が持つべきはずの慈愛精神によって心穏やかに認め合う許容性が退化しています。そのような世界で、みなさんは生きてゆく。ですから、これからも長く、広く深い知性、しなやかで創造的な思考が必要です。熊本県立大学は、学びたい人々をいつでも受け入れます。みなさん、必要なときは、いつでも熊本県立大学に帰ってきてください。

高村光太郎の詩「道程」は誰でも知っているでしょう。

ぼくの前に道はない ぼくの後ろに道は出来る

未来は可能性であり、過去は事実です。私たちの未来は確かに存在し、時は着々と私たちの眼前に現れます。そして、過去は決して変更することができません。

考えてみれば、未来とは実はたいへん虚ろな、はかない存在です。未来がどのようなものとなるか、今は分かりませんが、未来は創るものであります。何もせずとも、自然と未来はやってきますが、よりよい未来を望むのであれば、現在を生きる私たちの行動や意思が肝腎です。私たちの「今」は、未来を創るものとして極めて重要であります。

未来を創る上で、人には夢が必要です。理想が必要です。私たちは幸福に生きたいと願いながら毎日を過ごしています。あれもほしい、これもほしいと願うけれども、物理的な満足では真の幸福感を得られない。幸福感のすがたは人それぞれですが、物欲を満たすことではない、それは必ずや心の充実感であるはずで、人が現実を生きていくのは紛れもないことです。しかし、現実とは、実は、人を寄せ付けない、大きな存在であります。突然の事態が私たちを襲い、私たちは為す術なく立ちすくむ。森羅万象ものの命は永遠ではない。私たちは現実を生きているようで、生かされてもいることに気づかないといけません。常に自分の思うようになる、思うようにできる世の中ではないのです。だからこそ、自ら幸福を得んとして生きることに価値があると思います。夢と理想を蓄え、現実に見出し、未来の明るきことを信じ、今を大切に生きていきましょう。

日本は成熟の時を迎えています。成熟社会とは、物質的な豊かさがあり、科学的な技術や整備されたシステムが整っていること、また、普遍的価値としての人道的な精神があり、規範意識の高い社会を形成していることなど、総じていえば、平和で安定的な社会で暮らせることをイメージします。現代の日本に、ほぼ当てはまるでしょう。しかしながら、そのような日本社会は極めて不安定なグローバル・バランスの上に成り立っています。世界中に紛争があり、貧困があり、抑圧があります。人類は成熟しておらず、いまだ発展途上です。日本人だけが自分本位に生きられるわけもなく、私たちの幸せを誰が保証してくれましょう。私たちは、私たち自身のためにも、人類全体のことを考える目を持ちたい。それは、学位を得たみなさんの志であるはずで、

大学関係者一同みなさんを将来にわたって見守って参ります。主体的に自分が主役の人生を歩んでほしい。そのことを願って、ここに、私は次の歌を贈ります。

新しき時は来たりぬ輝ける夢と理想を蓄えしとき

平成 30 年 3 月 21 日

熊本県立大学 学長 半藤英明